

第36回矢沢地区グラウンドゴルフ大会開催

6月17日(土)、標記グラウンドゴルフ大会は57名が参加して開催しました。前日の大雨の影響で、水を含んだ重い芝の状態でしたが、思い思いに工夫を凝らしながら楽しみました。上位は混戦でしたが、高木団地の齋藤都子さんが実力を発揮し見事に優勝!



順位	氏名	公民館	順位	氏名	公民館
1	齋藤都子	高木団地	6	菅原重太郎	堰袋
2	多田幸二	高木団地	7	高橋秀造	二津屋
3	冨沢親孝	下通	8	佐藤忠行	高木小路
4	松田好隆	槻ノ木	9	古川和男	荒屋敷
5	川村鉄雄	安野	10	佐藤智明	高木団地

家族を守る 住宅用火災警報器

住宅用火災警報器とは、煙や熱に反応して、音声などにより火災の発生を知らせてくれる機器です



世界谷地原生花園(宮城県栗原市)探訪 〈第1回自然探訪教室〉

6月22日、第1回目の自然探訪教室は、この教室としては初めての世界谷地原生花園への探訪でした。当日は曇りベースの天候でしたが、参加した20名の方は初めての地で自然を堪能したようです。参加者からは「行ったことがない場所で、気になっていたのが良かった。ニッコウキスゲの群生は綺麗だった。ワタスゲも良かった。疲れはほぼなく帰ってこられた。チングルマが無かったのは残念だったが、全体的にいい旅だった。」との感想。



○地域づくり交付金事業査定委員会で検討

6月30日に開催の矢沢地域振興会役員会に先立ち、6月20日に地域づくり交付金事業要望について査定委員会で検討を行いました。直轄事業については現地調査も行いました。

今年度は各団体、行政区から68件、約1,360万円の要望が出されており、事業予算額が約900万円ですので調整が必要となりご理解を賜りたいと考えています。



令和5年度第3回矢沢地区地域福祉懇談会

6月13日、花巻市社会福祉協議会矢沢支部（佐藤和見支部長）は昨年度に引き続き3回目の地域福祉懇談会を開催しました。当日は各種団体から22名、社協運営委員9名、森明人先生と社協職員9名の総勢41名が出席し、矢沢振興センター講堂で行われました。今回は「私たちの地域を語ろう」をテーマに6つの班に分かれグループワークを中心に地域の持っている強み、弱みを語り合いました。次回の7月11日には第4回目が行われ、具体的な矢沢地区のアクションプラン（住民福祉計画）をみんなで作る予定となっています。



議論の進め方を説明する森明人先生



司会する社協矢沢担当の神山南さん

「こども広場」で待ってますよ！

やさわこども広場は、基本的に毎月第二・第四水曜日の10時から矢沢振興センターの大広間で開いています。お待ちしております！



移動図書館（ぎんが号）運行日程

7/6 (木)	団地会館	13:40~14:00
7/6 (木)	福祉センター	14:15~14:45
7/12 (水)	高木観音	09:20~09:50
7/12 (水)	振興センター	10:05~10:35
7/12 (水)	やさわこども園	10:50~11:20

令和5年度振興センター冷房使用料です！

施設名	区分	料金
矢沢振興センター	1階大広間（1台あたり）	70円
	2階談話室	80円

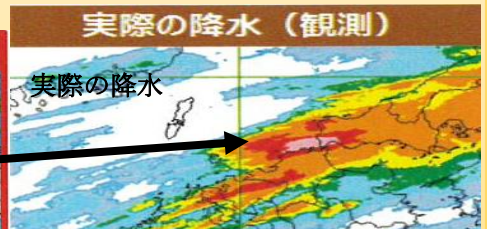
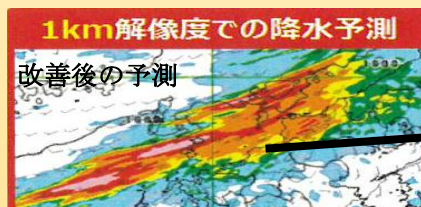
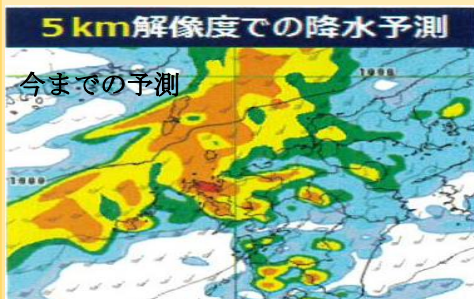
※1時間当たりの使用料、30分以上切り上げ、30分未満切り捨て。使用後の支払いをお願いします。

【事務局員のつぶやき】（梅雨についてのおさらい！）

今年も6月11日（平年6月15日、昨年6月6日）に東北北部の梅雨入りが発表となり、本格的な梅雨の時期となりました。そこで、今号で改めて梅雨に関するお話をします。そもそも「梅雨」の語源は中国から来たことばです。長江（揚子江）流域で、梅の実が熟するころに降る雨なので梅雨と言ったと言う事です。またじめじめして、カビが生えやすいので黴雨（ばいう）と言ったとする説などがあります。日本では、昔からこの雨を五月雨（サミダレ）と言っていました。が、「梅雨」を「ツユ」と読むようになったのは「日本歳時記」（貞享4年、1687年）に「これは梅雨（つゆ）と名づく」とあるので、江戸時代からと言われています。「つゆ」の語源については、「露」とも潰ゆ（ツイユ、ツユ・梅が潰れること）から来ているとも言われています。

私が現役の際は、梅雨前半は肌寒い曇雨天の「ヤマセ」と言うのが定番でしたが、近年は入梅当初から集中豪雨に見られるように短時間強雨的な梅雨が多いようにも思われます。今年も6月初めに「台風第2号からの湿りの流入+梅雨前線の活動活発化」と大雨時のパターンで、西日本から東日本の各地に線状降水帯が発生、記録的な豪雨となりました。全国的に大雨による河川の増水・氾濫、土砂災害は増加傾向にあります。人命にも関わる前線、台風による災害には十分な注意・警戒が必要です。

気象庁では、今年の3月1日から「線状降水帯予測スーパーコンピュータ」を稼働しています。今までのスーパーコンピュータの約2倍の計算能力をもつ新しいスーパーコンピュータを活用し、線状降水帯の予測精度の向上及び情報の改善につなげ、防災活動の支援に取り組んでいます。今回の6月初めの一連の大雨でも線状降水帯の予測や情報の発表に効果を発揮していました。



気象庁提供：水平解像度1kmに高解像度化した局地モデルのイメージ（位置ずれあるも強い降水予測の事例が増えることを確認）